

活動報告書 1

報告者氏名：関野 舞、小野 勝 所属：千葉県立君津特別支援学校 記録日：2014年 2月14日

【対象生徒の情報】

・学年

重度重複学級中学部2年女子生徒（A生徒）

・障害名

疾病による両上肢機能障害、移動機能障害

・障害と困難の内容

視覚障害があり、視力としては、明暗程度といわれている。音のする方に視線を向けることもあるが、追視はほぼ行わない。聴覚優位であり、音楽を聴くことを好む。手のひらや足の裏が過敏であり、手に慣れない物が触れたり、足の裏に触れられたりすることが苦手である。また、自分から慣れない物に触れることを好まず、初めて触れるもの、慣れない手触りの物にはなかなか触れようとしなない。喃語を発することもあるが、発語がないため自分の意思を自分から伝えることが困難である。

【活動目的】

・当初のねらい

保護者からの要望により、iPadの使用を開始した。iPadには以下の利点があると考えられる。

○ビッグマックスイッチは、新しい録音をすると前のデータが消えてしまう。iPadはデータを残したまま活用することができ、残したデータを使用して活動の振り返りができる。

○iPadは準備が容易で、使用したいときにすぐに使うことができる。

○A生徒には発語が無いため、自分で言葉を発して会の進行をするのが難しい。iPadを活用すると、iPad一台を使用するだけで朝の会や行事等の司会進行のときに役割を担うことができる。これまで担えなかった役割をもつことができるので、学校生活において活動の幅が広がる。

○iPadはいろんな音を自由に出すことができるので、家での余暇活動にもつながっていく。

以上のような利点を考慮し、iPadを家庭で使用するとともに、学校生活においては個別指導の時間を利用して担任と一対一の状況で使用することとした。iPadに触れる機会をできるだけ多く設定し、A生徒がiPadに慣れるようにする。

A生徒は音楽が好きで楽器を手に持ち鳴らして楽しむことができ、本人もそれを好んでいる。日常的に音の鳴るおもちゃや手に持つことができる楽器を手にしていることが多い。また、好きな曲や楽器の演奏を聴くと、笑顔になったり声を出して笑ったりする。そこで、画面に触れたら楽器の音が鳴ったり、曲が流れたりするような音の出るアプリを使用することで、楽しみながら学習でき、因果関係の気づきに導くことができるのではないかと考えた。以上のことから、『iPadに触れると音が鳴る』という因果関係が分かる。』という目標を設定した。そして、学校での学習活動や家庭での余暇活動の一つとなっていくことを願っている。

・実施期間

①平成25年4月～平成26年1月 個別指導の時間帯（13：30～13：45）

②平成25年11月25日～12月12日 自立活動Ⅲの時間帯（10：45～11：30）

平成25年12月13日 発表会当日（10：00～11：30）

・実施者

鈴木裕美（教諭）、関野 舞（教諭）

・実施者と対象生徒の関係

学級の担当教員

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

昨年度も本校は、魔法のじゅうたんプロジェクトに参加しており、学級に iPad が 1 台置かれていたため、少しではあるが iPad に触れる機会はあったが、A 生徒が特別に時間を設定して学習を行うことはなかった。しかし、他の生徒が iPad に触れて音を鳴らしていたり、曲が流れていたりとすると、音や曲を聴いている様子が見られることがあった。

今年度に入り対象生徒となってからは、A 生徒が興味・関心を示すアプリを模索しながら活動に取り組んできた。見え方に困難さはあるが、光や色を感じることはできるということもあり「花火」のアプリにも取り組んでみたが、あまり興味を示さなかった。視覚的に画像をとらえることが難しいことと、出る音が花火の音であり、興味を引くものではなかったことが原因であると考えられた。また、自分で弾く形式のピアノアプリや楽器のアプリも同様であった。

・活動の具体的内容と対象生徒の事後の変化

① 使用アプリ：『TinyPiano』

担当教員が A 生徒の興味・関心等を考慮し検討した結果、「TinyPiano」のアプリを利用することにした。無料版をダウンロードし、まずは担任と一緒に触れるところから始めた。学習として活動するときには、あぐら座位で 1 回 15 分程度を目安に行った。手に触覚過敏や慣れない物への恐怖心等があることから、積極的に手を出して活動する様子はあまり見られなかった。そこで、活動の合間や休憩時間等に、自然に触れる機会を設け、A 生徒が iPad に慣れることを目指した。A 生徒は学校生活において、布団の上での仰臥位または側臥位で過ごしていることが多く、車いすで座位をとっているときよりも気持ちが安定して過ごすことができる。A 生徒が知っているような曲を選び、側臥位の状態で顔の横に iPad を置き、A 生徒が手を伸ばしてたたくことができるようにした。その後、触れることに慣れてきたところで、布団の上であぐら座位をとり、教師が後ろから姿勢を支えながら一緒に触れるようにした。

活動を始めた当初は、目の前にある物 (iPad) が何か認識できないためか、自分から進んで触ろうとする様子は見られなかった。教師が A 生徒の手を支え一緒に触れるようにしても、触れることを拒む様子もあった。回数を重ねていくと、「触れると音が鳴る」ということに気づき始め、教師が A 生徒の手を iPad に近づけると、自分から何度も触れる様子が見られるようになった。

< TinyPiano を使用した活動の様子 >



< 活動の様子 1 >

初めは目の前にあるものが何か認識できず、指先で探るようにして触れている。



< 活動の様子 2 >

触れると音が鳴るということに気づき始め、自分から触れるようになった。

② 使用アプリ：『iWorkNote!』

A 生徒が iPad に触れることに慣れてきたので、iWorkNote! を活用し、発表会で『こぶたぬきつねこ』の歌を歌うという活動に取り組んだ。

事前に、画像を用いてタッチ画面を作成した。タッチ画面は発表で使用する歌の歌詞に合わせた画像を使用した。A 生徒は、「画面に触れると音が鳴る」ということが分かると、繰り返し画面に触れる傾向が見られたので、A 生徒が繰り返し画面にタッチしても先に進まず歌のタイミングに合わせられるように、操作ボタ

ンを画面に設定した。A 生徒が画面にタッチしたことを確認してから教師がボタンを操作して次の画面に移るようにした。…**1**

作成したタッチ画面（全部で4枚）に教員が歌声を録音し、A 生徒が画面をタッチすると歌うことができるようにした。歌声はA 生徒の性別に合わせ、女性教員が録音した。…**2**

1 画像を使用したタッチ画面



2 録音した歌声

- ① 「こぶた」 ② 「たぬき」 ③ 「きつね」 ④ 「ねこ」

活動時は車いす座位でテーブルをつけ、A 生徒が画面をタッチしても iPad が安定しているように、本体下に滑り止めを敷いておいた。教師は生徒が自分から手を動かして画面をタッチできるように、A 生徒の手を画面に近づけるようにして置き、肘を支えるように支援した。活動期間は約3週間で、毎週月・水・金曜日の午前中に活動を行った。取り組む時間としては、毎回約15分程度であり、そのうちA 生徒が iPad に触れている時間は約3～5分である。発表会は広い体育館で行うため、当日は iPad の音を拾うためにピンマイクを使用して、スピーカーから音を流した。

A 生徒が iPad に触れ始めた頃に比べ、自分から画面をタッチする動作が多くみられるようになった。自分から手を近づける様子はあまり見られないが、教師が生徒の手を画面に近づけると、自分から手首を動かして画面に触れることができた。また、一度音が鳴ると教師が手を添えなくても、A 生徒が自分から繰り返し手首を動かして画面をタッチする様子が見られた。

<iWorkNote!を使用した活動の様子>

活動の様子1

画面に生徒の手を近づけることでタッチしやすくなる。



活動の様子2

発表会本番の様子。



【報告者の気づき】

・報告者の主観的気づき

1年間 iPad を活用して音楽遊びを行ってきた。A 生徒は視覚的に情報が入らないため、自分から慣れない物、初めての物に触れることに恐怖心がある。iPad に限らず A 生徒が安心して触れられる物は限られている。iPad を活用した音楽遊びに繰り返し取り組んだことで、触れることへの恐怖心が無くなってきた。「iPad に触れると音が出る」ということを A 生徒が理解し、自分から触れることができるようになったと考えられる。また、学校で行う活動以外にも、その様子が見られるようになってきた。毎月 1～2 回作業療法士によるリハビリに通っており、そこでは様々なおもちゃを使用して訓練をしている。その際に iPad を使用することもあるのだが、他のおもちゃよりも手を出す時間が早く、「これ、知っている。私、できる。」というような自信のある表情をしたとの報告を保護者より受けた。学校だけではなく、環境の違う場所でも iPad に取り組むことができたということは、「太鼓は叩けば音が鳴る」「ストローは飲み物を飲むときに使うもの」というように「iPad は触れると音が鳴るもの」として A 生徒が理解できたと考えられる。A 生徒にとって実際に体験し触れて物を理解していくことは重要なことであり、その体験数を増やし理解できる物を増やしていくということは、A 生徒の生活の幅を広げていくことにつながり、大切なことと捉えている。

活動報告書 2

報告者氏名：秦野美恵、小野勝 所属：千葉県立君津特別支援学校 記録日：2014年2月14日

【対象生徒の情報】

・学年

重度重複学級高等部3年生女生徒（A生徒）

・障害名

先天性の両上肢機能障害、移動機能障害

・障害と困難の内容

てんかん発作があり、急激な気候の変化が起こると発作を起こすことが多い。視力は明暗が分かる程度であるが、聴力は特に問題ない。好きな音楽や音が聞こえてくると笑顔になったり声を出したりすることがある。腕に屈曲がある。体温がこもりやすく身体の緊張が強い。特に首や肩まわりの緊張が強くなり突っ張ってしまう。手首周辺に軽い拘縮が見られる。

【活動目的】

・当初のねらい

重度重複障害のある生徒が他者とコミュニケーションを取ることは難しいことがあげられる。自分の動作や活動で他者とコミュニケーションがとれないかと考え、コミュニケーションツールの一つであるiPadを使用し、あいさつや意思表示を代替えることで他者とのコミュニケーションを図っていききたい。使用したアプリ「VocaloWitter 蒼姫ラピス」「iWorkNote!」

・実施期間

平成25年4月～現在

「VocaloWitter 蒼姫ラピス」：1日1回×週5日×11か月

「iWorkNote!」：月1～3回



・実施者

秦野美恵（教諭）



・実施者と対象生徒の関係

学級の担当教員

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

Aさんは朝のホームルームの呼名では瞬きや腕の動きなどで返事をする事があったが、統一した動きをすることはなかった。また、初めての人や初めての場所ではとても緊張してしまうことがある。

興味のある音がすると声を出したり、音のする方を向いたりすることがある。

・活動の具体的内容

ホームルームでのあいさつでは、「VocaloWitter 蒼姫ラピス」のアプリを利用した。イントネーションを様々に変えることができるため、生徒が好むイントネーションに設定することで、意欲的に腕を伸ばすのではないかと考えた。

おつかいの場面では「iWorkNote!」のアプリを使用した。事務室や保健室に行くための用事を写真で撮り、音声を録音した。生徒が画面に触ると写真と音声の内容を聞いて相手になぜ来たのかがわかり、生徒の意思表示につながるのではないかと考えた。



事務室の職員に用事をお願いしているところ



ホームルームでの返事

・対象生徒の事後の変化

呼名の後の返事をする際には iPad を使用して返事を続けた。調子が良いと自分で腕を動かして再生ボタンを押すことができた。イントネーションの設定は平たんよりも、右下に凸の右上がりの曲線で低音から高音に上がるように設定した方が好みの方であった。ピッチは遅いよりは速めの方が笑顔になることが多かった。

【報告者の気づき】

・主観的気づき

朝の出席確認では毎日行っているため、腕に力を入れて画面に触れることが増えた。

おつかいの場面では緊張しながらも iPad に触れていた。事務室の職員や養護教諭から「受け取りました」や「ありがとう」などと言われるとほっとした表情をすることがあった。

・その他のエピソード（画像などを含めて）

学校に来られた様々な方に「自己紹介をしてください。」と頼まれることが多くあった。「VocaloWitter 蒼姫ラピス YAMAHA」を使用して自己紹介をすると4月や5月ごろは緊張していたが、回数を重ねると自信をもって画面上で腕を動かしていた。

「VocaloWitter 蒼姫ラピス」の高い声やイントネーションの真似をして、給食介助に入った教員がAさんに話しかけた。Aさんに「給食を一緒に食べてくれますか？」と、給食の時間にその教員が話しかけると最初は反応を示さなかったが、数度同じように話しかけると、Aさんの「はい」の意思表示である顔を右に向けることができた。車いすに座って移動中に iPad をおなかに立て掛けるように置

くと、近くを通る他クラスや他学年の教員の目にとまり、「何をしているの?」と興味を向けて話しかけられることがあった。初対面では緊張してじっとしていることが多いが、iPad をきっかけにして繰り返し話かけられると、Aさんの好きなことや、何をしているかなどを、アプリを介して伝えることができた。このようにiPadを使うことで他クラスや他学年の教師とコミュニケーションをとることに繋がってきた。

その他の使用方法（高等部重複学級1～3年 8名）

(1) 「iWorkNote!」の使用

① ホームルームの司会進行

毎日持ち回りで全員が前に出てホームルームの進行をしている。

iPad のヘッドフォン出力からラジカセの外部入力へ有線接続し、音声が出るようにしている。

② 実習頑張ろう会や報告会での発表

「VoiceTextMicro[MISAKI]」

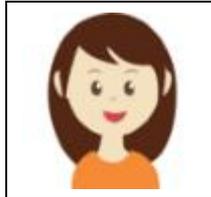
で発表する内容を音声再生して録音し、発表した。



ホームルームで司会をしている



実習報告会にて報告している



活動報告書 3

報告者氏名：秦野美恵、小野勝 所属：千葉県立君津特別支援学校 記録日：2014年2月14日

【対象生徒の情報】

・学年

重度重複学級高等部3年生女生徒（A生徒）

・障害名

先天性の両上肢機能障害、移動機能障害・障害と困難の内容

・障害と困難の内容

てんかん発作があり、急激な気候の変化が起こると発作を起こすことが多い。視力は明暗が分かる程度であるが、聴力は特に問題ない。両腕は引き込んだ状態であるが、教師が生徒の腕を伸ばすことによって、伸ばされた腕を自分の方に引きつける動きができる。

【活動目的】

・当初の目的

高等部重複学級（8名）の学校祭の企画として「わたしのお仕事ファッションショー」を行った。生徒それぞれ自分が憧れの仕事や得意な力を活かしてその職業になり切り、その映像を撮影した。当日は映像の上映とコスチュームを着た本人がその職業になり切って登場して発表する活動である。

Aさんは“アイドル”になりたいと保護者と一緒になりたい職業を決めてきた。そのため、きゃりーぱみゅぱみゅの様な変顔写真を作り、スライドにして発表することにした。

使用アプリ「Camera Plus」「FaceGoo HD」「Pic Collage」「AirStash+」

・実施期間

平成25年9月5日（木）導入～10月12日（土）学校祭当日 10月15日（火）事後学習
iPadを使用した期間

（1）撮影

9月20日（金）13：10～13：40

26日（木）10：45～11：15、13：15～13：40

27日（金）10：45～11：15

（2）写真編集

9月27日（金）13：10～13：40

10月1日（火）13：10～13：40

3日（木）13：10～13：40

4日（金）13：10～13：40

（3）実演練習（全体練習）

10月7日（月）13：10～13：40

8日（火）10：45～11：15

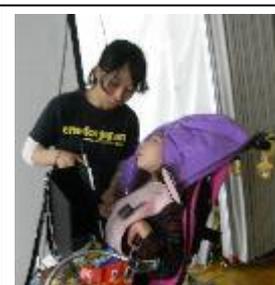
10日（水）13：10～13：40

（4）文化祭当日

10月12日（土）10：05～10：30、10：45～11：10



写真を撮影している様子



実演練習の様子

1回の授業は30分程度で午前と午後に活動した。写真を編集する活動は体調に合わせて車いすや布団で側臥位になり取り組んだ。

・実施者

秦野美恵（教諭）

・実施者と対象生徒の関係

学級の担当教員

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

腕をゆっくりと下げて画面に触れると返事をする、楽器の音を出すことができる。また、スイッチの上に手を乗せると押し込むことができる。教師の問いかけに対して左右の首の動きや視線の動きで答えることができる。右「はい」左「いいえ」としている。

・活動の具体的内容

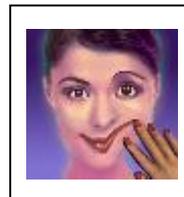
(1) 写真撮影

「Camera Plus」を使用した。iPad タッチャーを使用してスイッチとシャッターを連動して使用した。スイッチは丸スイッチを使用した。教師の顔写真を撮影するため、校内を自由に移動した。教室を出て行く時にどこに行きたいかを質問してから出発した。保健室や2階など答えることができた。廊下ですれ違う教師に対しても左右の首や視線の動きで答えることができた。撮影させてもらった人数は10人程度。一枚一枚写真を確認して編集する人を決めた。



(2) 写真編集①

「FaceGoo HD」を使用した。撮影した写真を取り込み、腕を伸ばした状態で画面上に触れるように介助すると、自分の身体に近づけるようにして腕を動かし、写真を湾曲させたり、ひきのばしたりすることができた。編集した写真は5人。



(3) 写真編集②

「Pic Collage」を使用し、編集した写真に背景と文字を入力した。背景はすべてのスライドで統一した色を一緒に決めた。写真に入れる文字も教師が質問して左右の首や視線の動きで答えることができた。



(4) スライド作成

「AirStash+」を使用して Wifi 機能を持っている本体（SD カード）へ転送した。作成したスライドを PC で BGM と教師のナレーションを入れて30秒程度の映像を作成した。



(5) 発表

作成した映像をスクリーンで上映しその後コスチュームを着たAさんが登場し、観客の前でiPadを操作して自分の写真を「FaceGoo HD」を使用して編集した。iPadとプロジェクターを繋いでスクリーンで編集される様子を見てもらった。映像と実演を合わせて2分半～3分程度の発表。

・対象生徒の事後の変化

iPad タッチャーを使い写真を撮影することができた。写真編集では iPad の画面に手を置くと自分で腕を動かして編集することができた。

【報告者の気づき】

・主観的気づき

写真撮影ではカットテーブルにどっちもクリップを使用して iPad を固定した。昨年から写真を撮る活動を数度行っているため、スイッチの上に手を置くと押し込むようにしてシャッターを切ることができた。写真を編集する活動では画面に触れると身体の方に引き寄せるようにして腕を懸命に動かしていた。

・その他のエピソード

Aさんがきゅりーぱみゅぱみゅの『つめまつける』の衣装を着て写真撮影やポスター貼りに出かけていると、他学部の児童生徒や教師から声をかけてもらうことが多くあった。特に大きなりボンと iPad は目を引いたようで高等部の女子生徒がたくさん話しかけたり、Aさんに触れたりすることがあった。文化祭当日は上映を2回行った。1回目は作成した映像が配線トラブルで途中から上映されていなかったため、事前に作成したスライドが流れなかった。2回目は iPad とプロジェクターの接続が途中で切れてしまったが、接続ケーブルをさし直すことで復旧し、Aさんが写真を加工する様子を見てもらうことができた。一般公開で見学に来られたお客さんから「自己実現の場としてとても良い企画だった」と好評だった。



撮影した写真を「Pic Collage」で文字と背景を入れたもの



「FaceGoo HD」で編集した写真を「Pic Collage」で文字と背景を入れたもの



ポスターを貼りに行っている様子



エンディングの様子

その他の取り組み

(1) 学校祭で「RealCoverPro」を使用してモデルになりきった写真を撮影し、雑誌の表紙を作成した。



(2) 音楽の授業で「BrassSS」を使用して『美女と野獣』に合わせてホルンの音を出して合奏をした。



(3) 「One Clap」を使用して授業でボーリングを実施した際に友だちがプレーをしている時に応援をした。



ボーリング大会で友だちを応援している

(4) 「Keynote」と「iWorkNote!」を使用して修学旅行のスライドを作成し、TVとつないで事前学習を実施した。



活動報告書 4

報告者氏名：秦野美恵、小野勝 所属：千葉県立君津特別支援学校 記録日：2014年2月14日

【対象生徒の情報】

・ 学年

重度重複学級高等部3年生女生徒（A生徒）

・ 障害名

先天性の両上肢機能障害、移動機能障害・障害と困難の内容

・ 障害と困難の内容

てんかん発作があり、急激な気候の変化が起こると発作を起こすことが多い。視力は明暗が分かる程度であるが、聴力は特に問題ない。好きな音楽や音が聞こえてくると笑顔になったり声を出したりすることがある。腕に屈曲がある。体温がこもりやすく身体の緊張が強い。特に首や肩まわりの緊張が強くなり突っ張ってしまう。手首周辺に軽い拘縮が見られる。

【活動目的】

・ 当初の目的

制作活動や体験的活動を行っている。これらの活動が始まる前によく音楽を流して期待値を上げることがある。また、曲が流れることで次にどのような活動が待っているのかを見通しをもって取り組めるようになる。Aさんは好きな音や音楽が聞こえてくると声を出したり、笑顔になったりすることがある。活動の切り替えの場面としての利用と、自分の好きなことが起こることで表情や身体の動きで意思の表現ができないかと考えた。アプリは「Sound Brush」を利用した。



・ 実施期間

平成25年12月～現在

・ 実施者

秦野美恵（教諭）

・ 実施者と対象生徒の関係

学級の担当教員

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

Aさんは好きな曲が流れてくると曲の流れてくる方向に、視線や首を動かすことや調子がよいと声を出したりすることがある。

・活動の具体的内容

(1) 活動時間

自立活動Ⅱ（なのはなタイム） 10:00～10:30ごろ 月・火・木・金

自立活動Ⅱ（なのはなタイム） 10:45～11:15ごろ 水

授業の始まりと終わりの30秒程度 1日2回×5日 3回ずつ流す

(2) 活動内容

自立活動Ⅱ（なのはなタイム）は自立活動の6区分の中の「身体の動き」に関することを中心に行う活動である。この活動の始まりと終わりに「Sound Brush」のアプリを利用して文字と機械音で始まりと終わりがわかるようにした。

・対象生徒の事後の変化

「Sound Brush」の機械音はAさんの好きな音であるため、音が聞こえてくると表情が変わったり、視線や首を動かしたりして音が流れていることを意識していた。また調子がよいと声を出してうれしいことを伝えることができ、気持ちを表出することができた。

【報告者の気づき】

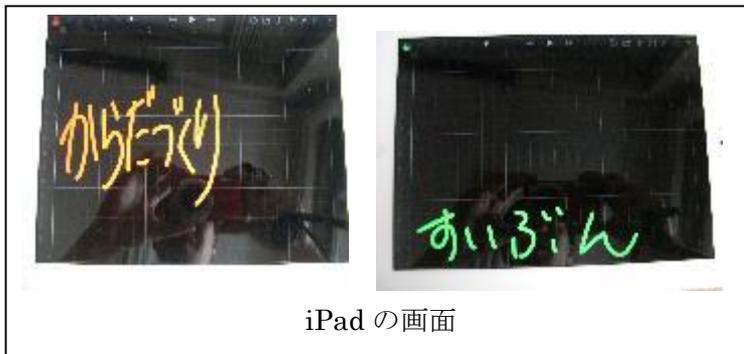
・主観的気づき

自立活動Ⅱ（なのはなタイム）は毎日行う活動である。活動が始まる前に向いている方向と逆の方向にiPadを置くと、流れてくる方向に首を向けたり視線を動かしたりすることが見られ、表情や身体の動きとして表出することができた。また、この活動始めてから日常生活で声を出すことが多くなったように感じる。当初のねがいである意思の表出に繋がっているのではないかと考える。

・その他のエピソード（画像などを含めて）



始まりの合図として音を聴いている



iPad の画面

活動報告書 5

報告者氏名：林文、小野勝

所属：千葉県立君津特別支援学校

記録日：2014年2月14日

【対象生徒の情報】

・学年

重度重複学級高等部2年女子生徒（Y生徒）

・障害名

先天性による両上肢機能障害、移動機能障害

・障害と困難の内容

本生徒は、医療的ケアを実施している。そのため、排たんのための吸引等、頻発なケアや排せつや着替え等介助に時間を必要とし、また発作や睡眠不足等の体調不良から、授業を受けることができる時間が限られている。上記の障害によって上下肢共に拘縮が見られ、体幹が大きく右に側弯している。また手首も大きく外反しており、関節の可動域は狭い。視力は測定不能であるが、動くものやはっきりとした色に視線を向けることができる。聴力は良好である。

【活動目的】

・当初のねらい

始めは、自宅の余暇活動の時間に使用する。また使用することで、生徒やその家族にも iPad の操作方法を知ってもらい、ある程度の操作ができるようにする。次に絵本等のアプリを使用し、読み聞かせを聞き、声を出したり、表情を変えたりする等、iPad を楽しく使用した経験を積んでいく。また苦手な歯磨きの時間に使用することで、歯を磨くことへの意欲を高めて、苦手な活動にも自分から取り組めるのではないかと考えた。そうして生徒 Y が iPad に慣れてきたら、朝や帰りの会、音楽、実習などの授業に iPad を使用して参加する。最終的には iPad を使用し、本日の出来事を大人や友だちに伝えたり、あいさつしたりするなど、コミュニケーションのツールとして使用することができるようになることを目標とする。

・実施期間

平成25年4月15日～平成25年12月20日

「iWorkNote!」：1日1回×週3日×4か月

「i love fireworks Lite」：1日3回×週4日×3週間

・実施者

母、林文（教諭）

・実施者と対象生徒の関係

母、学級の担当教員

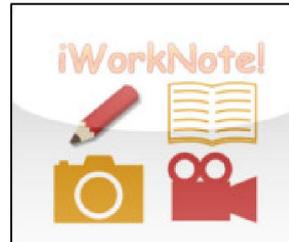
【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

1学期に休憩時間に絵本の読み聞かせのアプリを使用したり、苦手な歯磨き等でiPadを使用し、iPadに慣れ、興味をもって見て楽しいなと感じてもらえるようにした。2学期は「見る」「友だちとiPadをきっかけとして自分の気持ちを表したり、友だちと話したりする」を目的として「自立活動Ⅲわくわくタイム（夜空の光や音を見よう）」で使用した。授業で使用することでさらに生徒にiPadのもつ楽しさや使いやすさを実感してもらえるようにした。また授業場面以外にも毎日行える係り活動（医療的ケアで使用した携帯電話を事務室に返しに行く）として取り組み、さらに生徒の生活にiPadを使用し馴染んでもらえるようにと願い活動に取り組んだ。

・活動の具体的内容

「自立活動Ⅲわくわくタイム（夜空の光や音を見よう）」では、わずかな力で操作でき、見やすく分かりやすいアプリ（i love fireworks Lite）を使用した。授業ではiPadを使用しやすいように事前に手や視覚、聴覚を別の教材で使用して最後にiPadを使用するようにした。授業ではiPadをきっかけとして対話が生まれるようにクラスのメンバーを2～3人の少人数のグループに分け、授業の最後にグループの代表者1人を決めてiPadを全員の前で操作し、スクリーンに映して見る活動を行った。



iPadを使用し、毎日行える係り活動（医療的ケアで使用した携帯を事務室へ返却）に取り組んだ。iWorkNote!に本生徒の写真と「携帯電話を返しに来ました。よろしくお願ひします。（女声）」を録音し、生徒が触れると再生するようにした。

・対象生徒の事後の変化

始めの頃は、友だちが活動する様子に反応は示さなかった。しかし繰り返し使用していくと、友だちが操作した花火の音に気が付き、顔をアンプの方に繰り返し向けるようになった。さらに明暗程度と診断されていたがスクリーンの前で花火を見ると50cm離れたところで顔をスクリーンに向け、明らかに光に気が付き、自分から見ている様子が伺えた。授業単元の最後の方では「iPadの操作をやりたい人？」と聞くと、顔を左に向けたり口をもぐもぐと動かししたりして「やりたい」と伝えることができた。

始めは教室を出たり、事務室の職員に会ったり、スイッチを押したりするという活動だったので、散歩して誰かに会いに行くという感覚で楽しんで取り組んでいる様子が見られた。繰り返し行っていくと自分から画面に触れて音声を再生することができるようになってきた。

【報告者の気づき】

・主観的気づき

はじめは係活動というよりも教室からの移動時の顔に当たる空気（風）に視線を左右に動かして楽しんだり、事務職員の声聞いても反応がわかりにくかったりすることもあった。繰り返し行っていくと事務職員の声に視線を左右に動かしたり、自分からグッと腕を引き、意識して iPad に触れたりして携帯電話を返すことができた。また事務職員もビックマックで伝えていた時とは違い、iPad には生徒の写真、言葉、文字が出ているので教師を見て内容を確認することなく、生徒を見てやり取りすることができている。iPad を通して人に分かりやすく物事を伝えられ、また使用できる範囲が広がってきている。

・その他のエピソード

今回「夜空の光や音を見よう」で「i love fireworks Lite」を使用した。今まで医学的には視力は測定不能、教師の実態把握では明暗程度だろうと思われていた生徒が2名いた。しかし iPad に映った花火の映像を生徒が気づき目で追う姿が見られた。教師や保護者は生徒の視力に対して改めて実態把握をし直すことができたと同時に、見えていたという喜びを生徒、保護者、教員の全員で共有することができた。